

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせた作成も可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. C-53

部門名： 地域とともにある学校実践部門 **エントリー名：** 平成30年度教職員等中央研修(第4回副校長・教頭等研修) 和歌山県 かつらぎ町立洪田小学校 中谷有美子

活動名： 強みを活かした学校運営～地域とともにある学校として

解決すべき課題： 終了者は、研修から何を学んだかに触れつつ記載してください。解決すべき課題

浅野良一氏の「学校ビジョンと戦略」の講義から、学校運営は、目指す学校像(ビジョン)をもち、それに向けた経営戦略を組み立てるところから始まる。ビジョンを作るにあたっては、学校の実態(強み、弱み)を分析し、強みを生かすことが望ましいと学んだ。また、大野裕己氏の「地域の教育活性化とスクールリーダー」の講義から、これからの学校経営において、学校が、地域、保護者の期待に応える学校づくり、地域とともに学校づくりをしていくことが重要であると学んだ。

本校の強みの1つは、地域が学校に協力的で、ともに子どもたちを育てていこうという意識があることである。本校はコミュニティ・スクールの制度を導入して、今年で3年目となる。2年目の昨年は、教職員1人ひとりの学校運営への参画意識を高めるために、学校運営協議会と教職員合同の組織づくりに取り組み、プロジェクトチームを立ち上げた。このことは一定の成果を収めた。教職員と学校運営協議会、さらには地域との距離を縮め、教職員の意欲向上につながった。しかしながら、コミスクを推進していく上で最も大切な、地域が望む学校像についての話し合いや共有が不十分であった。そのため、今回地域住民・保護者の考えを交流する機会を設け、それをもとに、めざす学校像(ビジョン)を構築して学校運営に取り組みたいと考えた。

目標・方針： ※課題を解決するためにどんなストーリーやシナリオを構想して、活動内容を組み立てたのか、記載してください。

- ①コミスク報告会・熟議を企画・・・地域の人々とともに本校の歩みを振り返り、コミスク導入の意義を確認する。地域が望む学校像や子どもの姿を地域住民と共有し、目指す学校像(ビジョン)を構築する。
- ②学校運営協議会のプロジェクトチームとリンクさせた校内組織の編成と活動・・・ビジョンを実現するために、地域と連携した学校経営を行うための組織作りを行い、今年度前半は読書活動の推進に力を入れる。

活動内容： ※目標・方針に基づいてどのような活動を行ったか、また、複数の活動を展開した場合はその位置づけや関連性を記載してください

1. コミスク報告会・熟議の企画 昨年度末に実施 (表1) (写真1)
 コミスク報告会・・・8月に行った全国発表の内容を披露し、地域の人とともに本校の歩みを振り返り、コミスク導入の意義を確認する。
 熟議・・・本校教職員・保護者・地域住民の3者で、テーマ「①洪田小学校の子どもをどんな子どもに育てたいか。②そのためにはどんなことが必要か」についてグループ協議をし、その後全体で共有する。
2. 教育目標「思いやりの心をもち、自ら学び高め合う子どもの育成～やさしく かしく たくましく～」を設定し、本年度の教育実践をスタートさせた。保護者・地域住民の熱い思いを受け止め、学校・家庭・地域が協働して学校作りを進めていく。
3. 校内組織の再編成・・・地域と連携した学校経営を行うための組織作りの工夫。(表2)
 校内組織における3つの部会を、昨年度立ち上げた学校運営協議会の3つのプロジェクトチームとリンクさせる。これは、校内の取組と学校運営協議会の取組を連動させ、効率化を図るため。
4. 読書推進の取組(学力を着実に向上させる部会・読書推進プロジェクトチームの取組)(写真2)
 今年度前半、読書推進プロジェクトチームとの連携のもと、読書推進に力を入れて取り組む。(写真3、4)
【取組内容】①事前アンケートによる実態把握 ②本校の課題分析からテーマの設定
 ③4つの柱による取組の計画と実行(図1) ④事後アンケートと子どもの変容による検証(グラフ1)

活動の成果： ※課題設定に対して、どんな影響、変化あったか、参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

1. 熟議を終えて、参加者から「いろんな立場、年齢の人と話ができて良かった。」「ランダムに選ばれた方々と同じテーマについて話し合うことができて、こういうワークショップはいいなあと思います。」「様々な意見が聞けて良かったです。」という感想があった。様々な立場の人が80名も集まり交流できたこと、目指す子ども像について考えを述べ合い、共有できたことは大きな意味があった。
2. 校内組織の再編成は、校内の指導とコミスク行事を連動させる為に必要であったと考えているが、これによってリーダーの負担が大きくなり、個々の負担に偏りが生じているとの声がある。プロジェクトチームや部会内での役割分担が今後の課題である。
3. 地域の学校支援ボランティアの協力を得て、図書室の環境整備が大きく進んだ。また、低学年の読書意欲の向上に関して成果がみられた。後半は高学年の取組に力を注ぐ計画をしている。ビブリオバトル等の取組を通して読書への関心を高めたい。

アピールポイント(アイディアや工夫)： 3～5つ程度、箇条書きしてください

- ・熟議によって学校・地域・保護者が望む子どもの姿を共有し、目指す学校像を構築できたこと。
- ・学校運営協議会で立ち上げたプロジェクトチームとリンクさせた校内組織の編成。
- ・本校の強みを活かして読書推進に取り組んだこと。

<写真、図表添付欄>

表1 熟議で出された意見

①洪田小学校の子どもをどんな子どもに育てたいか。	②そのためにはどんなことが必要か。
<ul style="list-style-type: none"> ・他人の気持ちを思いやることのできる優しい子 ・地域のことが好きと言える子、地域を大切にできる ・大きくなって地域のために貢献したいと思える子 ・自発的に行動でき、自分の考えが言える子 ・感謝のできる子、挨拶のできる子 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全な地域の環境作り ・高齢者と子どもや子ども同士が交流できる場 ・地域に開かれた学校 ・大人の考えの押しつけはしない ・他に開かれた地域

写真1 熟議の様子



表2 校内組織と学校運営協議会プロジェクトチームとの連携

①学力を着実に向上させる部会	←→	読書推進プロジェクトチーム
②豊かな心を育む部会	←→	環境整備プロジェクトチーム
③健康・安全第一部会	←→	安全対策プロジェクトチーム

写真2 読書推進プロジェクトチーム



図1 4つの柱による読書推進の取組内容

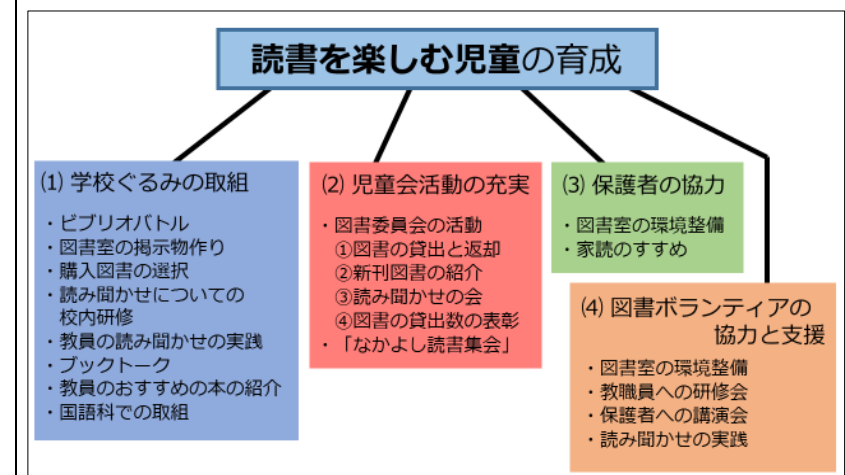


写真3 低学年ビブリオバトル



写真4 ボランティアによる支援



グラフ1 事前事後の読書アンケートの比較

